

# 筆ポリゴンを活用した農村部と市街地の合意形成実証業務

## 概要

アライグマ等の中型獣類については、生息域の拡大に伴い、農作物被害のほか、家屋侵入等の生活環境被害や在来生態系への影響などが問題となっており、被害防止のためには、農村部と市街地が連携し、地域が一体となった取組を推進していくことが重要。

地域における被害状況や実施されている被害対策等の情報を可視化することで、農家のみならず、地域ぐるみで対策を行う必要性について意識共有し、効果的な被害対策の推進を図った。

## 詳細

### 背景

- アライグマによる被害は、農村部と市街地の共通課題であり、住民間の合意形成のもと、被害対策を行う必要がある。

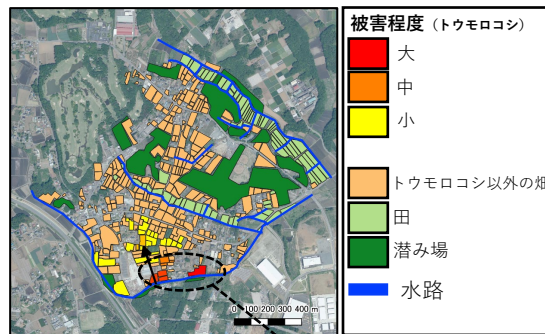
### 目的

- 被害状況や現行の対策等の情報の可視化及び認識共有のツールとして筆ポリゴンデータの有効活用を図ることで、住民間でわかりやすく共有し、合意形成を図り、効果的な被害対策の推進につなげる。

### 取組内容

対象地域において、アライグマによる被害や対策に関する情報をヒアリング及び現地調査を実施し、筆ポリゴンを活用した効果的な被害対策の立案を行った。

また、農村部と市街地の共通課題を解決するための合意形成のツールとして筆ポリゴンの活用方法を検討した。



被害の発生している作物について、被害程度を調査し、水路や潜み場に近い農地で被害が大きいのを可視化

地域住民向けの研修会に活用

### 【地域研修会用資料】

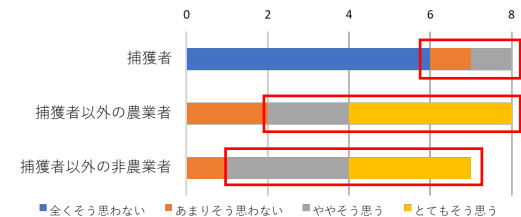


### 【地域研修会アンケート結果】

被害にあいやすい農地の環境条件について、知らないことが多かったか。



非農業者において、「そう思う」と回答した割合が多かった



### 成果等

- 筆ポリゴンにより地域の情報を可視化した地図を合意形成促進のツールとして活用することで、視覚的に把握することが可能となり、農家のみならず地域住民の理解促進につながった。
- 筆ポリゴンへの作物情報の付与や周辺環境の情報（用水路、潜み場）を追加することで、被害リスクの高い農地が明らかとなり、対策の優先度の検討に活用可能であることが示唆された。
- ほ場の形状やまとまりが可視化でき効果的な柵の設置ルートを検討にも活用が可能であると考えられた。

### 今後の展開等

- 筆ポリゴンを活用し、住民間の合意に基づいた被害対策を推進していくとともに、周辺地域への本事例の展開を図る。